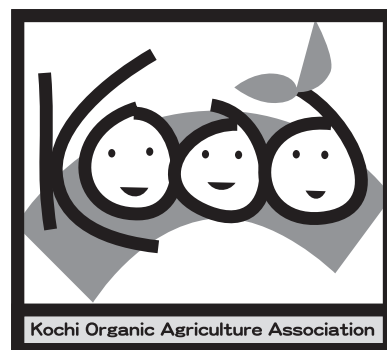


いろいろゆうき



2011年 秋・第13号

よさこいふるさと市場

有機農業農産物フェア

出店・委託販売の

参加者と野菜を募集

4月に開催しました、高有研主催の有機農産物フェアですが、年内に10月末、12月末の2回、開催が決定しています。会員のみならず、まの参加とご協力をお願いします。高有研の会員が栽培、加工した農産物を対面で販売することで多くの市民の方々に有機の農産物の安全性やおいしさを広く知っていただく機会といたく計画しています。

日時 10月30日(日)

9時～5時

場所 よさこいふるさと市場

高知市南久保

販売 委託販売も受け付けます。

委託手数料は15%です。

当日は土佐山グループのもちつき出店も予定しております。

第3回は12月25日に開催を予定なお、詳しいことは左記にお問い合わせください。

お問い合わせ・申し込み先

山本優作 090-1008-4717

田中徳武 090-8970-2577

山下紘宇 090-4975-9475

10月7日、1時～
四万十市の有機圃場
見学と講演会、討論
会を開催

NPO法人高知県有機農業研究会は有機農業による生産技術向上のために、有機圃場見学を行い、講師による講義や生産者相互の意見交流により有機農業への理解を深め普及推進を図っています。本年度は下記のとおり四万十市で行います。関心のある方をお誘いあわせご出席ください。



日時 平成23年10月7日(金)

午後1時～4時

集合場所 四万十市役所 1時

研修地 四万十市内

講師 大野正雄氏

元土佐農業改良普及所長
元(財)夢産地とさやま開発
公社農業相談員

*内容

①有機圃場見学

環境に優しい農業のための研究会
会員 田中さん、弘田さん

②講義

「有機農業と土づくり」

大野正雄氏

③有機農産物の学校給食への現状(南国市)山下紘宇氏

よさこい有機の会・高有研理事

④参加者相互の意見交換

参加対象

有機農業に興味、関心のある方

参加費 資料代等一人1000円

(高有研会員は500円)

参加申込

参加希望者は電話またはFAXで10月4日までに申し込みを。

TEL: 090-1008-4717

FAX: 088-895-2840

高有研事務局 山本

ネオニコチノイド系農薬の危険性について

井上正雄（高有研理事）

群馬県で内科と小児科を開業している院長の青山美子氏の講演を聞いた岐阜県の友人から資料をみせてもらいましたので、紹介します。青山医師は農薬の神経毒性研究では日本の第一人者といわれています。

数年前から日本はもとより、世界のミツバチの数が急に少なくなつたと言われ、マスコミでとりあげられたためご存知の方もあると思いますが、その原因がネオニコチノイドといわれていました。ネオニコチノイド系農薬を空気から吸ったり、散布された農産物を食べたために起こった症状と実態についての話では、すでに人間への被害が蔓延し、この農薬散布直下の住人や散布した本人が急性の農薬中毒症状になったり、リンゴやイチゴを大量に食べた子どもが不整脈、記憶障害、精神障害を引き起こし青山医師の診察を受けて

農薬中毒と診断され治療を受けて治癒した例が千五百人以上いるそうです。この農薬は1990年頃から使用され出した新農薬殺虫剤で商品名は文末に記しておきます。

お米、野菜、豆類、果樹等全般に使用され、とりわけイチゴ、トマト等の果菜類、リンゴ、桃、ぶどう、梨等の果物、お茶の日本での残留基準がアメリカ、EUに比べ20倍から500倍も緩いため残留が多く、毎日の使用や摂取による健康被害が出ているとのことです。

ネオニコチノイド系の農薬は殺虫効果が大きい半面、哺乳類には比較的毒性が低いとのことで許可され、今では殺虫剤の30%以上に使用されている他、タンスの防虫剤、ペットのダニ退治薬、ゴキブリ、シロアリの駆除剤、コンパネの木材の接着剤等家庭に身近にあ

るものの中にも殺虫剤として入っているそうです。また松くい虫防除の農薬は、以前は有機リン系だったそうですが、今はネオニコチノイド系が使われているそうです。農薬の大量の使用と、家庭にあるこれらのものの、空中からの飛散のものとあり、空気中や水道水を通して私たちの体にもうすでに入ってきていると気付かれます。

体内に入ると分解され、毒性がさらに強くなり、心臓の不整脈、体中の痛み、だるさ、物忘れ、動悸等の症状を引き起こし、小児ではADHD（注意欠陥多動性障害）等の発達障害の要因となる危険性もあるそうです。このような情報はこの農薬を国が許可しているため一般にはまだ知られていませんが、1998年～1999年に自殺者が倍増し、毎年増加していることや、2005年～2008年に小中高生の暴力事件が倍増している事と、この農薬の使用量の増大が比例していること等知れば知るほど大変なことだと思えます。水や空気、食べ物、飲み物等から

日本中がすでに被害を受けています。ネオニコチノイド系の農薬は今までいちばん多く使用されてきた有機リン剤の毒性が問題になり、害虫たちの薬剤耐性が強くなつてきており、近年の救世主のように現れた農薬のようです。



この農薬の中毒が他の農薬と大きく違うのは残留した農薬を飲食して急性慢性の中毒となっている点です。青山医師が行う治療法はどんなに重度の急性中毒でも解毒剤の静脈注射と、ネオニコチノイド系農薬が使われている恐れの大きい国産の果物を食べる事とお茶を飲むことを禁じるだけです。

心臓やうつつの薬、抗アレルギー剤や鎮痛剤等は一切与えず三日〜三カ月で全快するそうで、この事から中毒だと断定できるそうです。どうかみなさんも自分で調べてみてください。

手先は震えていませんか？物忘れはないですか？自分がうつ病かもと疑うことはないですか？心臓は大丈夫ですか？原因のわからないアレルギーや発疹はないですか？もしそのような病状がみとれたら農薬の散布されている恐れのある果物とお茶をやめて見てください。インターネットで「ネオニコチノイド」を検索してみてください。「NPO法人ダイオキシン環境ホルモン対策国民会議」のホームページにネオニコチノイド系農薬問題に関する有用な資料が掲載されています。最近地震と津波、放射能汚染のことが毎日話題になっていますが、農薬のことも決して忘れないで身近なこととして問題意識を強くして対策をしていくように、その使用を減らす運動を強めていくよう望んでいます。

ネオニコチノイド系農薬の種類・用途

有効成分	商品名	開発企業	用途など
イミダクロプリド	アドマイヤー、メリット	バイエル	野菜の定植時に植穴処理 アブラムシ、コナジラミ、ミナミキイロアザミウマなどの長期的防除
アセタミプリド	モスピラン、マツグリーン、イールダー SG、アリベル	日本曹達	果樹、野菜などのコナガ、ツツガ、アブラムシ、タマゾウムシ、シロアリ駆除、松枯れ対策
ジノテフラン	スタークル	三井化学	カメムシ、ウンカ、コナジラミ、アブラムシ、シロアリ駆除
チアメトキサム	アクタラ	シンジェンタ	アブラムシ、コナジラミ、コナガ、ハモグリバエなど防除
ニテンピラム	ベストガード	住化武田農業	稲のウンカ、野菜のアブラムシ、動物用医薬品
クロチアニジン	ダントツ	住化武田農業 バイエル	カメムシ、ヨコバイ、アブラムシ、ミカンハモグリガなど防除

ネオニコチノイドの用途と商品名

用途	商品名（成分名）
農業 ～イネ・果物・野菜～	ダントツ（クロチアニジン） ベストガード（ニテンピラム） アドマイヤー（イミダクロプリド） モスピラン（アセタミプリド） アルバリン（ジノテフラン） プリンスフロアブル（フィプロニル*） クルーザー FS30（チアメトキサム） スタークル剤（ジノテフラン） ハスラー粉剤（クロチアニジン）
林業 ～松枯れ防除～	マツグリーン液剤（アセタミプリド） エコワン3フロアブル（チアクロプリド） モリエート SC（クロチアニジン） ビートルコップ顆粒水和液（チアメトキサム） エコファイターフロアブル（チアクロプリド） モリエートマイクロカプセル（クロチアニジン）
家 ～シロアリ駆除・建材～	ハチクサン（イミダクロプリド） アジェンダ SC（フィプロニル*） タケロック（クロチアニジン）
ガーデニング ～花・芝生～	ベストガード（ニテンピラム） アースガーデン（イミダクロプリド） イールダー SG（アセタミプリド） カダン殺虫肥料（アセタミプリド） モスピラン（アセタミプリド）
ペット ～ノミとり～	アドバンテージプラス（イミダクロプリド） フロントライン（フィプロニル）
家庭用 ～殺虫剤～	コバエガホイホイ（ジノテフラン） アリの巣徹底消滅中（ジノテフラン） ボンフラン（ジノテフラン） ブラックキャップ（フィプロニル*） ワイバアワン G（フィプロニル*）

快適・便利・クリーンガス



安心24時間緊急出動体制

株式
会社

高橋商事

有力ガス石油機器卸直売特価販売キッチンバスリフォーム

オールガス石油機器メーカー修理

月刊紙で景品付クイズと安全便利情報ご提供

省エネ・耐震の暮らし何でも相談室開設、お気軽にお電話ご相談大歓迎

年中
無休

088-822-0615 (代表)

24時間受付 本社 高知市三國町68

とくしまマルシェ視察記

9月25日(日) 徳島市内で開催されたとくしまマルシェを視察してきました。



とくしまマルシェは徳島の中心部を流れる新町川沿いの「しんまちボードウォーク」という板張りの遊歩道で月に一度開催されている、生産者さんたちによる直売の産直市です。

去年12月から始まったこの市は、今では1万人以上の来場者が訪れる人気市となり、関西から日帰りバスツアーで来られる方もいらっしゃるそうです。



この市場の大きな特徴は、出店者を公募せずに事務局のスタッフがこだわりの農業に取り組む農家を実際に訪問し、生産環境や商品を調査した上で条件を満たした生産者に出店を依頼すること、消費者に質の高い農産物を提供するという点です。実際、意識も志も高い生産者のみなさんがいずれも素晴らしい生産物をそろえて自信と誇りを持ってお客さんたちに接している姿に胸が熱くなりました。みなさんともいきいきとしていらして、お客さんたちもただ商品を買うだけでなく、コミュニケーションを楽しみながら、どんなふうに食べるのが美味しいのか、どんなこだわりで育てているのか、普

段はどこで買えるのかといったことを聞いて買物されていました。



この日は50件以上のお店が並び、かなりののにぎわいを見せていました。地域の運動会と重なったとのことですが、それでもいつもより少ないお客さんだったとのこと。マルシェ以外のイベントも近くで開催されており、街の中での回遊性もあってお互いの相乗効果を生みだしているように感じました。

もともと開催を提案したのは民間シンクタンク徳島経済研究所の田村耕一専務で、2005年10月、徳島県産食材と観光を抱きあわせて売り込む

「朝市構想」を提案したのがきっかけのこと。大塚化学や阿波銀行、徳島のスーパー・キヨーエイトといったところからの協賛金により、マルシェの什器やチラシ、ロゴデザイン等を作られ、これがまたとても素晴らしく、「ヨーロッパの朝市を目指す」というコンセプト通り品のいいおしゃれな雰囲気をもたせています。

その雰囲気に合わせてるように、各お店がそれぞれにレイアウトを工夫したり自身自身の服装を整えたりと、努力されています。



農家の農産物のみならず、マルシェに出店している農園の野菜や果物でジ

ユースやシロップ、クッキー、ケーキ、ジャムなどを作って販売している野菜ソムリエさんたちなど、マルシェの中のコラボレーションがあちこちで見られました。



消費者たちはより安心・安全できるものを納得できる価格で購入することを求めています。そんな中で、マルシェは生産者と消費者が互いに直接つながりあう大切な機会となっています。

マルシェ事務局の上田啓人さんいろいろな話がかがったのですが、一番嬉しかったことはマルシェに参加されている農家さんがいろんな失敗を重ねながらも自分で努力・研究されて

お客様に愛されるお店に成長されたことだとおっしゃっていました。

出店者の一人、武澤農園さんは、出店当初はなかなか思うように野菜が売れず、最初は場所が悪いんじゃないかというようなことを話されていたそうです。しかしほかのお店はどんな売り方をしているのか、どんな工夫をしているのかを学びながら、やがて「あんとこの野菜が食べたい！」とお客様にわざわざ選んでいただけるお店になりました。

ある時間店間際に来られたお客さんにナスを「値引きして。」と頼まれ、「今回はお金はいらんけん持って帰って食べてみて。そのうえで美味しいと満足してもらえたら次は買ってください。」とその野菜をあげたそうです。そして、次の時そのお客さんは「あんとこのなすは美味しかったけん、お米も絶対美味しいはず。」とお米を買ってくれたとのこと。今ではどこの場所においても武澤農園さんを探してもらえるほどお客さんに大事にされるお店になっています。武澤さんの努力もさることながら、そのがんばりはたで見ながら応援していらっしゃる事務局のみなさ

んにも感動を覚えたことでした。



高知にも街路市やオーガニックマーケットがありますが、今回とくしまマルシェを視察して感じたのは「本気の覚悟」です。阿波踊りで有名な徳島、実は商売はなかなか難しいと言われている場所です。しかし、マルシェに出店されている多くの若手農家たちは農業で生きていくという覚悟を決めて、柔軟性をもってお客さんと向き合っていました。月に一度のマルシェというステージで自分たちの商品に存分に光をあてて、自らもお客さんに愛される作り手であり売り手となる努力を真剣に形にされていました。その努力がまた生産物のレベルをあげ、消費者の満足へとつながっていくのでしょう。

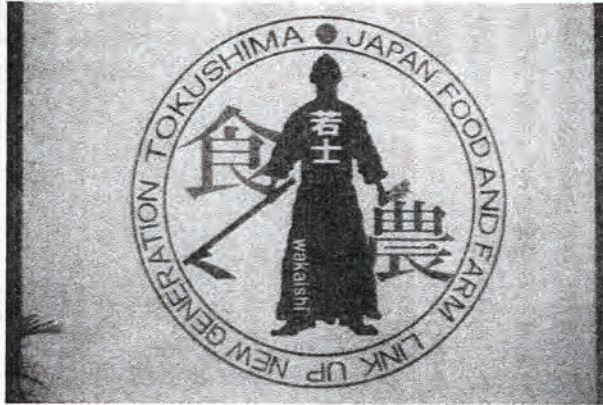
商品を売る場所だけでなく、こどもたちがモノづくりを体験できるコーナーがあったり、ライブ会場で音楽が楽しめたり、お客さんにゴミ拾いの協力を得たり、インターネットでの野菜販売や動画配信といったこともされています。でも「まだまだやりたいことはたくさんある。」と事務局のみなさんがおっしゃっていました。



お隣り徳島のがんばりを目の当たりにしながら、わたしたち高知も同じく本気の覚悟を決めて、消費者のみなさんと直接つながり、「おまんくの野菜が食べたいがよ。」と選んでもらえる農家の活躍のステージをきちんと作らねば、と高知に帰ってきたことでした。(谷口)

徳島で食と農を考えた夜

9月26日(月)、前日のマルシェに引き続き徳島市内で開催された『若士(わかishi)』食と農に携わる交流会』に参加してきました。



若士(わかishi)はとくしまマルシェに出店されている川添農園の川添雄大さんが、徳島を代表する名だたる生産者が参加するマルシェから今までにない特別な刺激を受け、この出店者を中心に横のつながりを持ちたいと感じたことがきっかけで開催されるようになった交流会です。徳島の若い農家(参加資格は若い気持ちを持つ方)と「食」

「農」の関係者による交流会で、現在2カ月に1回開催されています。



「食は調理する技術だけが全てではない、農は素材を作る事だけが能ではない、食の無限の可能性をこだわりの農から考える交流会」とのこと、毎回テーマを設け、生産者からの商品提供ありの食事をしながら交流の輪を広げ、いろんな角度の目線を持つみなさんと笑いを交えて情報交換しているそうです。

今回も100人近い参加者が訪れていましたが、わたしが名刺交換しただけでも福祉住環境コーディネーター、野菜ソムリエ、フードコーディネーター

ー、四国経済産業局、製麺会社、イタリアンレストランのシェフ、レンコン専業農家、美容師、雑貨屋、研究開発者、阿波市農協後継者クラブ副会長をつとめるエコファーマー、運送会社の営業担当、炭屋、と実に多種多様な顔ぶれが集まっていました。



それぞれの分野は違っても、食と農というキーワードの元に集まった若いし(若い衆)たちはお互いにすぐに打ち解けあい、会に参加している生産者が提供した食材を使った料理を美味しく食べながら熱い食・農談義に花を咲かせていました。

※写真は7月に開催された時のもの。前回は那賀郡、勝浦郡の食がテーマ。





4 回目の開催となった今回は、「若士とベテランのスペシャルコラボレーション」として地域農林経済学会理事の野田靖之さんと竹パウダー研究者の武田邦夫さんによる、食と農の歴史をテーマにしたお話がありました。

また、今回の料理は那賀ベジタブルさんのアイスパラント、マルチリーフ、リバーファームさんのシャオパオ（チンゲン菜）を使った特別メニュー、ファーム唐渡さんの水耕栽培で育てたほうれん草を使ったデザートが用意され、どれもおいしくいただきました（料理の写真を撮り損ねたのが残念です）。



会場内にはママテーブルが設けられており、生産物や商品、パンフレットを置くことができます。参加している農家さんたちの実際の野菜を目にしたリ、その活動ぶりを表す写真を眺めながら、直接本人と話すことができて大変有意義でした。

特に今回わたしがお話を聞いたレンコン農家の長谷川さんは、仲間たちに「レンコンバカ」と呼ばれるほどにレンコンを深く愛し、レンコンを熱く語られ、彼の話を聞いているだけでわたしまでレンコンが愛しくて愛しくてたまらなくなっただけでした。長谷川さんにいただいたレンコンを料理しましたが、油で炒めて塩をしただけで十分



に甘くておいしい一品となりました。

この交流会を通して出会ったレンコン生産者とイタリア料理店のシェフがコラボレーションし、オリジナルメニューの提供に結びつくなどといった事例が生まれているそうです。お互いにお互いの人柄と仕事を知ること、農と食はつながりあい、より良い関係が育っていきます。

とくしまマルシェにしても若士にしても、「つながりあうことで強くなっていくお互いの力」を感じました。おらが、おらがの意識が強く、横のつながりができにくいと言われる高知県ですが、もうそんなことを言っていられる時代ではありません。

高い質と技術、意識と志を持った生産者と、それを理解したうえで応援する売り手や使い手がお互いに協力しあえば、たくさんの相乗効果が生まれます。今徳島は本気でがんばっています。もちろん高知にいるわたしたちもそれぞれの想いで日夜がんばっています。そのがんばりをつなげあって、食と農のしかるべき未来をみんなで紡ぎ合っていく時代です。

高知だ徳島だという県境を越えて、ともに同じ四国という島で暮らす仲間として、これからも若士と交流を続けていきます。（谷口）

芸術学園幼稚園、給食へのとりくみ

高知市大津の芸術学園幼稚園が給食に有機野菜をとりいれ、自然農法でサツマイモや米作りに子どもたちが取り組んでいると聞いて訪ねました。偶然にもその日からこ

だわり給食のスタートということ、でちよつとのぞいてみると、野菜中心のかわいいお弁当がならんでいました。お子様ランチ的な揚げ物やカラフルおかずではありません。事務長の太石真司さんは、長野県上田市の大塚教育長の、荒れた中学校が米飯給食にして、正しい食生活が子どもの心を安定させ、学校が変わったという話を聞いた、高知で赤峰勝人さんの話を聞き、自分の農場まで訪ねて行つて、ますます自然と共にある生活、小さい頃からの食の大切さを確信し、若いお母さんたちも一緒に食育を幼稚園で取り組んでいくことになったと話されました。園庭の前にはジャンボタニシに草取りをし、もらった稲田が黄金色に色づき、

楽しい稲刈りやいも掘りの収穫作業もまもなくのようでした。

お肉は週1回程度にし、調味料もできるだけこだわっていききたいとのこと。すべての幼稚園、保育園で有機野菜を中心にすえた給食ができるようになることを願っています。

◆ 講演会のお知らせ ◆

「ほんとの野菜ですくすく子育て」

平成23年10月6日(木)10時～12時

場所 芸術学園幼稚園ホール

高知市大津 食品工業団地西

講師 ナチュラルハーモニー代表

河名秀郎さん

参加費 無料

高知県私立幼稚園子育て支援事業

託児あり(要予約、定員10人程度)

参加希望者は電話でお申し込みを

TEL: 088-866-3200

有機農業から健康なまちづくりへ

有機農業セミナー開催のお知らせ

日時 平成23年10月15日(土)

午後1時～4時30分

(受付12時30分より)

会場 土佐山公民館3Fホール

(定員120名)

高知市土佐山

高知市役所土佐山庁舎の北側

参加費 1000円

講演会 有機農業について

講師 木嶋利男先生

NPO法人全国有機農業

推進協議会 理事

事例報告 自然農法の生姜作り

武市和久氏

MOA自然農法四万十

普及会会長

新しく有機農業で就農されたい方の相談会を3時半～4時半まで行います。

主催 一般社団法人MOA自然農法文化事業団

農法文化事業団

共催 NPO法人高知県有機農業研究会

有機農業参入促進協議会

後援 高知県 高知市

(財)夢産地とさやま開発公社

お問い合わせ・お申し込み先

MOA自然農法文化事業団

四国支所

TEL087/818/1112

FAX087/818/1114

木嶋先生プロフィール

1948年生まれ

東京大学農学博士

栃木県農業試験場生物工学部長

自然農法大学校長

(1999～2004)

今年も10月16日、日比谷公園で音楽で彩る日本最大級の環境配慮型農業と農的暮らしのマルシェ、土と平和の祭典2011が開催されます。今年はやはり311東日本大地震による被災や放射能被害にある農家さん、子供たちの支援をテーマに、ミュージシャンたちのライブパフォーマンスやスペース・ラグレストによる緊急メッセージ、トークセッション、ファーマーズマーケット、食堂・酒場、子ども広場、リズムランドのワークショップと盛りだくさん。

実行委員長は半農半歌手 Yae さん（故藤本敏夫・加藤登紀子の次女）。また長年有機農業に関わって来られた農家や環境活動を行ってきた多く世話人、賛同人と、団体、企業が協賛しています。詳細は以下のURLへ。

<http://www.tanemaki.jp/saiten2011/>

情報 切り抜き 抜き

有機農業に関する情報を切り抜いてあつめました

10月16日 日比谷公園
土と平和の祭典2011
入場無料 雨天決行!
朝10:00スタート!
音楽で彩る環境配慮型農業と農的暮らしのマルシェ。

イラストラティオン・デザイン 生良気
はじめる自然!
種まき大作戦
東日本大震災救援!
東北の農家さん、福島の子供たちを応援しよう!

種まき大作戦では運営カンパの一角を、『土と平和の祭典2011』における東日本大震災で被災された農家および福島の子供たちへの支援活動に使わせていただきます。

福島原発による放射能汚染を乗り越えるための 除染事業「大豆・ひまわり・菜の花プロジェクト」へのご支援 をお願いします。

拝啓

時下益々ご健勝のことと存じます。常日頃より当会の活動にご理解とご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、すでにお聞き及ぶのことと存じますが、この度の東日本大震災により東日本の農業は大きな打撃を受けてしまいました。特に福島原発に近い浜通りで、食の安全と環境の再生に勤しんできた当会の有機農業者にとって、その打撃ははかり知れないものがあります。農地を奪われ、肉親を奪われ、清らかな大地を奪われた会員農家を筆頭に、原発150キロ圏内の農地はそのほとんどが放射能で汚染され、有機農業の継続が危ぶまれる状態となってしまいました。

栃木県に本部を置く当会は、附属農場を基盤に、別紙のような除染事業を開始し、経営を維持しながら除染をすすめるシステムの構築にとりかかりました。5年後には、地域全体に除染事業を広げながら清らかな大地をとり戻す、確実な見通しを打ち立てたいと願っています。

プロジェクト推進農家の第1号は当会の附属稲葉農場が担い、技術的な問題を解決してまいります。第2号からは本格的な除染事業体として福島全域や栃木県北部に事業体を建設し、植物油とメタンガスエネルギー、有機質肥料などの生産連合体として、放射能除染と食・エネルギーの地産地消を実現したいと願っております。

この壮大な無謀とも言える事業は、多くの方々のご支援抜きには実現するものではありません。本来は国や地方公共団体が実施すべきことと思われる方々も多いかと存じますが、それでは地域農業の再建は不可能です。地域の農業者が自らの意思で進めることが第一であり、それを支援する自治体や国の政治があつて初めて成功できるものと思います。

以上のような、私どもの志をおくみ取りいただき、別紙の方法にて多くの方々からのご支援をいただけますよう、心からお願い申し上げます。

プロジェクト事業本部
NPO法人 民間稲作研究所
理事長 稲葉光國

- ① 除染事業は2名の運営スタッフが10～15haの田畑と市民の庭や家庭菜園を対象に実施します。
- ② スタートするまでに機械・施設の整備に約25,000,000円の運転資金が必要です。
- ③ 10月にスタートすれば翌年の12月には除染をしながらナタネ・大豆・ひまわり油とメタンガス、有機肥料の生産販売が可能になります。2年後には約24,000,000円の粗収益が見込まれ、約40%が手元に残ります。(植物油売上が前提です。)

運営スタッフに応募します。

運転資金を無利子で貸し付けます。

運転資金をカンパします。

植物油を購入して支援します。

どれでも大歓迎

事業本部 NPO法人 民間稲作研究所

〒329-0527 栃木県河内郡上三川町鞘堂72

電話 0285-53-1133

理事会報告

定例理事会 9月2日1時半～

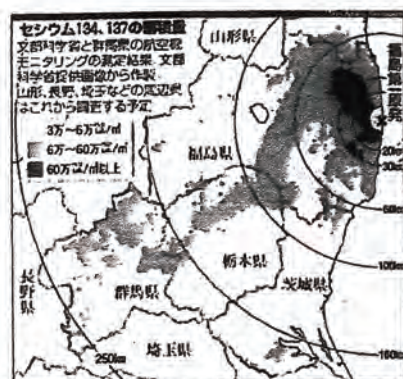
場所 高知市土佐山菖蒲 和庵

(事務局)

主な協議事項

- 1 ホームページの件
10月を目途に作成依頼した。
- 2 有機農業現状把握のための
県下市町村行政担当者訪問
報告があり、四万十市、宿
毛市を中心に西部地区を田
中理事長と山本事務局長が
順次訪問し、政担当者と懇
談したとの報告があった。
引き続き他の地区も順に訪
問する予定。
- 3 高有研主催有機農業推進研
修会開催の件
第1回目を四万十市で開催
する。
- 4 第2回有機農産物フェアの
開催が10月に決定された。
いろいろゆうき13号が、
9月末に発行予定で内容に
ついて検討された。
- 5

セシウム飛散、250キロ以遠にも 群馬の汚染地図公表



セシウム134、137の蓄積量

文部科学省は9月27日、航空機を使って測定した放射性セシウムの蓄積量について、群馬県の汚染マップを公表した。東京電力福島第一原発事故によって飛散した汚染の帯が、250キロを超えてひろがっていることがわかった。8月23日～9月8日、県の防災ヘリコプターで測定した。

汚染度の高い地域の帯は、原発から北西60キロ付近まで延びた後、南西に方向を変えて栃木県を越え群馬県まで続いていた。文科省によると放射性物質

を含んだ雲が山地に沿って風に運ばれ、樹木や雨によって地上に沈着したと推測できるという。放射性物質の量が半分になる半減期が30年のセシウム137で最も蓄積が多かったのは県北部。原発から約180キロ離れたみどり市や桐生市などの山間部の一部で、1平方メートルあたり10万～30万ベクレルにのぼった。250キロ離れた長野県境の一部でも3万ベクレルを越えた。チェルノブイリ原発事故では3万7千ベクレル以上が汚染地域とされた。

以上インターネットの朝日新聞より転載

編集後記

福島から15人の子どもたちが土佐山に招待されて夏の高知を思いっきり楽しんだ。新聞で呼びかけて高知に疎開してきた小さな子連れのお母さんたち5組と疎開にともなう家族や自分の中での葛藤の話を聞いた神戸では、集落全体で引っ越したいというのがなんでもと想像できなかったと聞いた。原発事故のもつ理不尽さがじわじわと伝わってきている。明日は我が身。伊方原発を終息させたい。(東條)

特定非営利活動法人
高知県有機農業研究会 広報紙
いろいろゆうき 第13号
2011年9月30日発行

〒781-3214
高知市土佐山菖蒲651
090-1008-4717
事務局長 山本優作

当紙に関して、また、入会申込み、共に上記までお問い合わせください。

当会の事業は、会員の皆様にご協力頂いています会費により運営されています。入会をご希望の方、会費が未納となっている方、下記口座への納入をお願いいたします。

郵便振替 01640-6-56351

加入者 特定非営利活動法人
高知県有機農業研究会

個人	運営会員	5000円
	賛助会員	3000円
年会費	購読会員	1000円

団体	運営会員	10000円
年会費	賛助会員	5000円

守ろう世界の再生資源
リサイクル社会を一步前



有限会社 大前田商店

代表取締役 前田 寛

南国市同慶町八幡860-1 TEL088-862-1555 FAX862-1579

URL: <http://omaeda.com/>
e-mail eco@omaeda.com

